

平成27年度 第3回 宮古市中心市街地拠点施設市民検討委員会 議事録

1. 日時 平成27年9月2日（水） 14時00分～15時40分
2. 場所 シートピアなあと 2階 研修ホール
3. 出席委員 17名
北原啓司、寺崎勉、澤田克司、赤沼正清、小野寺文雄、内田瑛子、林本卓男
山下修治、佐香英一、高橋雅之、横田大樹、鈴木光子、工藤歩、佐々木慶子
金野侑、平藤一氏幸、望月正彦
4. 事務局出席者 5名
企画部長 山崎政典 復興推進課長 多田康
復興推進課市街地施設推進室室長 岩間健、同主任 竹田真人
都市整備部建築住宅課建築担当 主任技師 小林勝明
株式会社久米設計東北支社 3名
株式会社三菱地所設計 3名
株式会社千代田コンサルタント 1名
5. 傍聴者 2名
6. 議題 I. 拠点施設建設事業について
II. 宮古市庁舎跡地活用に関する基本構想（素案）について
III. 市民アンケート調査の集計結果について

7. 議事録（要旨）

I. 拠点施設建設事業について

主な意見及び質疑事項	
質疑	・本庁舎。職員数は394人に見直しということだが、平成33年度の人口はどの程度の減少を見込んでいるのか。
回答	・次回資料提供したい。（事務局）
質疑	・本庁舎の建設にあたって、スマートコミュニティの概念を利用すべきだと考える。おおよその人口減がどういう比率なのか見通し、もっと圧縮してスマートでコンパクトな庁舎を作るべきだ。
回答	・昨年の基本計画策定の意見交換のなかでも説明した。人口減少に伴って職員数が減っていくとの意見だが、業務量に見合った職員数がある。今回は、どの組織にどのくらいの人員が必要か、採用計画、退職する人数など細かいところを積み上げている。ただし、今後3～4年後の正確な数字を出すのは非常に難しい作業であり、これからの推移を見定めなければならない。平成33年には、職員の定員の適正化計画の下に570人を達成し

たいと考えているが、現場の声とすれば、復興作業がどれくらい残るかという心配をしている。これからも整理が必要である。(事務局)

質疑

・田老・新里・川井をもっと充実させるべきだ。本庁舎に機能的に集約させてワンストップになるのはいいことだが、それ以外の組織を無理やり集約していいのかと思う。逆に合併したからこそ地域の振興を図るべきだ。それが今後の課題ではないか。

回答

・あくまで394人というのは本庁舎に入る人数だ。田老・新里・川井の各総合事務所は機能を継続する予定で、総合事務所の職員はこの人数に入っていない。(事務局)

質疑

・2Pのスペースの面積について、書類スペースが現状から3分の1以下に減少しているが、原本の保存等で書類は簡単に減ることはなく、むしろ増えると思うが、どのように考えているか。

回答

・行政には議会関係などの永久保存文書がある。宮古小学校の校舎や分庁舎、中央公民館分館などに分散している永久保存文書を、1つの場所に集約することが必要だと考えている。場所については、川井・新里の廃校施設の活用も視野に入れたい。(事務局)

質疑

・デジタルファイリングについても考えているのか。

回答

・ファイリングシステムの活用は現在考えていない。書庫は庁内でも一番要望の多い部分だ。コストをかけて新しく整備するので、物置スペースは最小限にし、各公共施設の有効活用を図りたい。また、日常の文書管理等仕事の仕方を考える必要があると考えている。(事務局)

質疑

・市民交流センターについて、建って終りではなく地域全体でどう活用するか考えたい。ソフトの話はその次という感じがあった。基本計画では「市民活動のサポート機能を検討します。」という記述があるが、機能するのかという印象を受けた。例えば事務室があるが、事務室は何をする事務室なのか。専門性をもった窓口機能を持ったほうがいいのではないか。

回答

・3月に出した基本計画では、建物を建てることを含めて、どうやってこのまちを元気にしていくかという構想だ。今日議論しているのはその設計案だ。大事なことはこの建物をどう作るかではなくて、どう使っていくかということだ。市民と一緒に考えていくような会議を始めていかないと追いつかない。他自治体の事例だが、設計者をコンペで決めたときに、活用するための委員会を作った。その中で活用のイメージを設計に生かすことができ、オープン時から予約が入っていた。あくまで設計だけじゃなくて使い方のイメージを

<p>聞いて共有することが必要だ。(委員長)</p> <p>・庁舎と保健センターは行政棟なので市がしっかりと管理する。市民交流センターについては直営にするか、指定管理にするか、課題である。民間管理の方が、施設をより上手く活用でき、中心市街地に賑わいが広がっていくことが期待できると思っている。ハードが先行しているが、使い方や管理のあり方等を検討したい。(事務局)</p>
<p>質疑</p> <p>・耐震構造で決定なのか。</p> <p>回答</p> <p>・今日の説明を踏まえて議会にも報告し、最終決定するが、この方針で進めたい。(事務局)</p>
<p>質疑</p> <p>・従前面積を越える部分のお金というのはどのように工面するのか。</p> <p>回答</p> <p>・保健センターは、これまで950㎡で面積を計画していたが、すべて災害復旧費でまかなう施設として検討していた。災害復旧費の考え方は従前の諸室面積が最大となる。災害復旧費に加えて、地域医療再生臨時特例交付金という別の補助金を活用することで、今まで配置していなかった授乳室、エレベーター等の財源を確保したい。(事務局)</p>
<p>質疑</p> <p>・前回示した建物の予想図は漠然としているが、曲線が使われていて、機能性は別として宮古市に新たに新築する建物として、心ときめくデザインであった。今回用意された資料では、色使いなので余計に感じるが、曲線がなくなって堅い印象を受ける。色がつけば別の印象にはなったと思うが、かといってデザインばかりにお金を使うというのは前時代的でもある。シーアリーナの楕円形の会議室が非常に使いにくいというのは、身に染みてわかっている。ただあの程度の緩やかなカーブであればすごくいいと思っていたところ、四角くなっていた。</p> <p>宮古の商店街とつながる、心ときめく味付けがあると市民も「おっ」と思うのではないかという気がしていた。一方で風除室から内側のオープンスペースや軽運動スタジオが予定よりも広がっていて、余裕を感じる部分に面積が増やされたのは好感を持った。</p> <p>回答</p> <p>・今回のパースは全体のボリュームバランスを見せるために作られたものだ。次回には計画に近い形のパースを見せてもらえるようにしてほしい。(委員長)</p>
<p>質疑</p> <p>・市民交流センターについて、皆さんの意見によってはレイアウトを含めて変わる可能性はあるが、全体の大きさは変わらないということでよろしいか。</p> <p>回答</p> <p>・平常時の使用もあるが、非常時は避難者の受け入れのスペースを確保しなければならないという前提がある。避難者の推計値については避難エリアの見直しをしていないの</p>

で受け入れ人数は変わっていないため、面積としてはこれくらい確保したい。今後復興交付金の申請を控えており、こちらの計画面積で協議をしていくが、場合によっては面積が変わってくるかもしれない。(事務局)

質疑

・市民交流センターについて、市民に意見を聞きながらという話をしたので、面積がもっと膨らむ可能性があるかと思ったが、そうではなく、中で多少調整という可能性があることを認識した。交流センターについては市民の協力を得ながら、運営も市民全体で行っていきたいという言葉があった。基本的には市民交流センターは365日動いているというふうに考えてよろしいか。

回答

・そのような内容でよろしいと考える。市民アンケートでも、土日祝日、夜間も一定時間営業してほしいという要望もあった。庁舎・保健センター棟とは別に管理できればいいと考えている。(事務局)

質疑

・シートピアなあとや他の道の駅もそうだが、17時や18時で閉まる、あるいは朝の9時にならないと開かない。役所が運営しているとはいえ、あまりにも観光都市ではないのではないか、また市民の活用に合っていないのではないかとということがたくさん出てきている。市の事務的な庁舎と交流の場というのは趣旨が違う。そういうのを上手く運用するように工夫していただきたい。

回答

・市庁舎の部分と市民交流センターの部分において、朝に高校生が歩いて学校に行けて庁舎には入れないなど、そのあたりは建築のほうで考えていかなければならない部分だ。他の自治体では、ある施設を、復興庁にそんなに面積はいらないと言われていたので、頑張っていたきたい。(委員長)

質疑

・1歳半検診と3歳児検診を保健センターで行っているが、県から市に事業が移ってきたときに、健診をやる広間は市役所にも保健センターにもなかったので小さい部屋を組み合わせてやっていた。検診では歩いたり走ったり自由に動くところを診る。診察室の隣に、着替えや、動き回ることが可能な30畳前後のスペースが必要で、岩泉町や山田町にも同様のスペースがあるが、どこを使うのか。

回答

・意見として頂戴し、健康課とも改めて検討したいと思う。現状では診察室と検査室は隣り合った方がいいということ、あるいはその近くに診察等で使う機材を入れる倉庫を設置してほしいと聞いている。また2階については土足禁止というご意見がある。配置については検証の余地があると思うので、直接利用される側の皆さんに意見聴取をしたいと思っている。(事務局)

質疑

・検査室というのは具体的にはどういう部屋なのか。

回答

・今日の案はたまたま出てきたので、いくらでも変えられる。専門の方々と議論していただきたい。(委員長)

・次回詳しく説明したい。大切な問題提起をいただいたので、今後保健センターのヒアリングの際にこういった件を検証したい。(事務局)

質疑

・多目的ホールや研修会議室が線路に近いところに設置されている。騒音等の音に関する検証はされているのか。

回答

・実施設計の段階で音を出す空間であれば、残響も含めて内装等で配慮する。まずは材質ではなく間取りを意識してもらいたい。(委員長)

質疑

・屋外広場の曲線の件は、1つの売りだと考えていたので活かしてほしい。1Fのエントランスが左側と正面にあるが、正面の風除室が20度くらい傾いているのは何か意味があるのか。総合受付の丸い部分の空間が狭いので広くすべきではないかと感じた。

連絡通路の関係だが、JRと三鉄の駅の改修についての話があったりしたが、これはこのままのこの形で動いていいのか、それとも動きがあるのか。

回答

・正面の風除室の角度は検討すること。(委員長)

・現在、駅舎の機能を損なわないよう、両方の駅舎の間にということで考えている。様々あると思うが、今回はそれぞれの機能を活かした形で位置を決めていきたいと考えている。(事務局)

質疑

・作っている基本設計とは視点を変えて、もし両駅の関係性に答えが見えてきたら、修正をしていく可能性はあるのか。

回答

・山田線の宮古一釜石間を三陸鉄道に譲渡するということで基本合意を、JR東日本と4市町と県が結んだ。それでJRが前提条件として、鉄道敷地を含む鉄道事業用地については関係市町に譲渡するということになっている。その譲渡対象の中に宮古駅の駅舎も入っている。細かい協議はまだこれからのところだが、現段階で、中心市街地と結ぶ連絡通路については石碑がある場所しかないと考えているので、基本的には三鉄とJR宮古駅の間で考えていくしかない。(事務局)

・山田線の宮古一釜石間の復旧工事が終わった後に三陸鉄道に移管されることになっている。三陸鉄道とすれば、現在の三陸鉄道宮古駅は行き止まりになっているため、使わないことになる可能性が高いと思う。1枚目の図面で宮古駅と書いてあるのがJR宮古駅だが、こちらの方に上り車両も下り車両も入って出て行く形になると思う。三陸鉄道の本

社機能は移さないが、駅の機能はＪＲ宮古駅のほうでやる可能性が高い。ＪＲとの協議によるが、いずれ直通運転しないと移管した意味がないのでそういった方向で進めたい。
(望月委員)

質疑

・市民交流センターについて。研修会議室はあまりにも大きすぎるので、気軽に使える小規模な会議室のほうが交流・連携に資するのではと思う。

視聴覚ＯＡ室は防災・学習兼用と書いてあるが、使い方のイメージが湧いてこない。ＯＡ室の部分は会議室にすればいいのではないかと考える。

情報提供コーナーについては、物足りない部分がある。多目的ホールよりは小規模な展示スペースを市民は求めると思う。常時気軽に自分の作品を展示・発表できるスペースを設けていただければ役立つと思う。

本庁舎については、ゆとりがあって快適な空間だと思うが、無駄とゆとりは紙一重だ。機能が重複する部分は避け、不要な部分は避けたほうがいい。ロビーコーナーは、それぞれの執務室に椅子・テーブルが配置されており、３、４人であれば結構だろうし、もっと大人数になれば会議室が用意されている。一般の市民の方が待ち合わせとなれば、市民交流センターのオープンスペースで十分足りる。利用用途が重複されているのでロビーコーナーは不要不急なものだと思う。市民の方のリフレッシュコーナーというのは市民交流センターのオープンスペースで十分用は足りると思う。喫煙室もあったが、私も愛煙者だがそこまで必要ない気がするので、削減は十分可能だと思う。

一番気になったのは議会の図書室と控室だ。基本計画でなかった部分が唐突に出てきたのは違和感がある。必要な部分だろうとは思いますが、現状で必要がないのであれば甘受すべき部分だと思う。少なくとも図書室の部分はいらないと思う。近くに図書館もあり利活用も十分可能と思うし、必要な図書については委員会室や事務室で機能できると思う。議員控室は東向きに面しており、宮古の市街地を見渡せる絶好の部分だ。ここを全部議員控室に使うのは市民感情から難しいと思う。市庁舎、議会が市民に開かれている状態を目指すのであれば、一般市民が来やすいように控室の場所を市民展望室というような形で市民に開放すれば、議会の傍聴しやすさが出て、市庁舎自体も身近に感じられる市庁舎になると考える。

回答

・設計に関することではどのように専門家と市民が折り合いをつけるかについては、専門家は専門家なりに考えている空間がある。リフレッシュコーナーを否定していたが、市民のリフレッシュコーナーを作るのは当たり前の時代になっている。出来るだけ節約という気持ちは分かるが、ここで難癖付けてもその分が減るとは思わない。ロビーをいくら減らすといっても２階も３階も同じ空間なので削っても吹き抜けにしかない。１つだけ気になったのは控室が一番いい空間なのにもったいないんじゃないかという話だ。ただ、これも答えを出そうとすると、管理区分を逆にしない限りは、東側は使えない。(委員長)

・エレベーター３、４が５Ｆまで通ってないのは問題ではないかという指摘は内部の打

合せでもある。冒頭話したとおり最終案ではないので、今日の意見や内部の意見も踏まえていく。ただし、5 Fだけで解決できる問題ではないし正方形の活かし方は技術的部分で、設計業者に頑張っていただかなければならない。(事務局)

質疑

・5 Fのワンフロアの使い方が難しいのは理解できる。ただ代用できる機能・施設があれば重複は避けるべきだ。ゆとりの空間が必要なのは理解できるが、できるだけ経費の削減を図るべきだ。

回答

・会議室の件については、大きな空間を少なく作って使いたい人たちが限られていくよりは、可動間切りで部屋を区切られるような工夫も必要だ。久米設計がやっている青森の施設アウガではワンフロアに多くの会議室があり、外から見られるようになっている。やり方はいくらでも考えられる。諸室名だけではイメージできない。こんなことができる空間だというイメージがあると、豊かな議論が出来ると思う。(委員長)

質疑

・補助金などのお金がこのくらいあるから目いっぱい使おうとか、議会をワンフロアに配置しようという発想は良くない。従来の方針を変革する発想が必要ではないか。特別会議室と防災対策室を兼用にするなど柔軟に対応できる形でもいいと思う。

回答

・ご意見として承る。ただ、特別対策室というのは明らかに違う。新しい市役所に入っているが、無線から映像から全部見られて、常にどこでどんなことが起きているかわかるようになっているので会議室の兼用とは少し違う。部屋の名前だけではイメージがわからない。どういうものなのかがわかるような説明を次回事務局に準備してほしい。(委員長)

Ⅱ. 宮古市庁舎跡地活用に関する基本構想（素案）について

Ⅲ. 市民アンケート調査の集計結果について

質疑

・前提条件の本庁舎・分庁舎の解体と基本方針も理解できる。中央公民館があるが、前の話では手を付けないという話があったが、今回の中に含まれないのか。新しい施設ができれば古い施設は使われなくなる。できれば中央公民館も含めた跡地利用を実施していただきたい。

回答

・中央公民館については、公共施設再配置という別の土台で議論したい。(事務局)

〈北原委員長から〉

今日の委員会で出た意見について設計担当に考えていただき、次回は部屋の名前ではなく雰囲気や活用イメージが分かる資料を出していただいた方が議論しやすい。保健センターについては部局と相談してリアリティを増してほしい。市民活動については運営を含めて理解できるような仕組みがわかるように今後議論したい。

設計図として大きい図面だけではなくて、使い方・使われ方が議論できるような資料を作
っていただくと、具体的な話ができる。

〈事務局から〉

次回の委員会は10月9日（金）午前9時30分から。場所はシートピアなあどの予定し
ている。のちほど通知するが、場合によっては会場の変更があるので、確認をお願いしたい。

以上、閉会。